





# あの戦争はなんだったのか！ 歴史の事実を見つめ、真実を語り、語り継ごう！ 歴史歪曲の安倍内閣改組 侵略戦争美化

## 荒れ狂う鉄の暴風

### 沖繩戦の実態

アメリカ軍の沖繩への攻撃が迫ってきたため1944年8月、沖繩の国民学校の子どもたち780人が対馬丸にのって長崎にむかいました。しかし、米軍潜水艦の魚雷攻撃によって沈められ救助されたのはわずかな子どもたちだけでした。

沖繩では住民を防衛隊に組織し、中学生を鉄血勤皇隊員にして戦闘に参加させ、女学生は看護要員として日本軍とともに行動させました（ひめゆり学徒隊など）住民は壕やガマに潜んでいました。日本兵がいたガマでは、食料を出させられ、赤ん坊は外に連れ出すように命じられました。米軍が降伏するように呼びかけましたが、日本兵がガマの出口で銃を構えていました。捕虜になるなら帝

米軍は鬼畜だからと教えられていました。

日本軍は最後には玉砕を決意して、住民にも手榴弾を配りました。この手榴弾を爆発させて家族や近所の人と自決した例が数多く見られます。また、住民がスパイ容疑をかけられ、日本軍に殺害される事件も起こりました。

沖繩戦での県民の死者は15万人（人口60万人）と推定されます。日本軍は日本本土防衛の「捨て石」にする作戦でした。

夏の沖繩平和ツアーに参加した中学生・高校生が沖繩でこんな大変なことがあったなんて知らなかったと語っていました。教科書で記述されている内容は本当に簡単なものです。ヒロシマ・ナガサキの原爆被害のことは知っている人でも、2年前の沖繩であった戦争の事実はまだまだ知られていないのではないのでしょうか。

朝輝 千明（小曾根小）

## ○米軍・普天間・嘉手納の基地見学

住宅地の真横にある普天間基地。そして、嘉手納基地。ここでは戦闘機の飛行訓練をこの目で見る事ができました。戦闘機は見たことのない速度で飛んでいきます。地面に突き刺さるような音が、戦闘機が落ちてくるような錯覚も覚え、それが次から次へと続きます。特に午前中は休みなく訓練されているそうです。これでは沖繩市民は安心して生活は送れませんし、実際に墜落事故も



上：平和の礎 沖繩の地で犠牲となった人の名前が刻まれている

下：激戦地であった嘉数高台から普天間基地をみる。



起こっていることを考えれば誰だつてこの米軍基地の存在が市民にとって危険なことが分かります。

## ○基地移設・辺野古キャンフ

まず驚いたことは「移設」とニュースで取り上げられていますが、すでに基地の施設が出来上がっていたこと。埋め立ては

## 戦後70年 夏 沖繩ツアー 戦跡&米軍基地をめぐる(2)

一時中止になつていても陸では既に公然と進められていることに、沖繩の

訴えを無視した政府は許されるのでしょうか。そんな中、24時間「反対」の座り込み？を続けています。夏休みということもあり、全国から多くの教職員も集まり一緒に訴え、基地の周りのデモも行いました。沖繩戦では餓死もでたとのこと。しかし辺野古地域は海の恵みで餓死が出なかつたそうです。そんな恵みの海だからこそ、海を守るうとする思いが強いです。

「沖繩に米軍基地を置かなかつたら他国から攻められた時にどうするか」という考えをよく聞きますが、「もし沖繩の基地から攻撃すれば沖繩が報復される。再び沖繩戦が繰り返される」と現地の方が訴えていました。

みなさん、そこまで考えていたでしょうか。少し考えれば当たり前の流れですね。だからこそ絶対に移設は許してはいけません。沖繩の訴えを本州に住んでいる私たちはもつと真摯に受け止めなければなりません。